

一般社団法人 日本薬学教育学会 第5回理事会 議事録

開催日時：令和3年4月19日（月）10：00～12：00

開催場所：WEB 会議システム（ZOOM）による開催

理事：乾 賢一、中村明弘、有田悦子、入江徹美、奥田真弘、亀井美和子、鈴木 匡、
武田香陽子、永田泰造、西口工司、長谷川洋一、安原智久

<欠席>：石川さと子、木内祐二、小佐野博史、高橋一栄、

監事：林 正弘、吉富博則

事務局：斎藤 渉、村上 聡

議事：

定款第35条第2項に基づき、議事録には乾理事長と林監事、吉富監事が署名又は記名押印することが確認された。

1. 前回理事会議事録案について（承認事項）

中村理事より前回理事会の議事内容が議事録（案）に基づいて報告され、承認された。

2. 事業実施状況報告（報告事項）

財務担当の亀井理事より2021年3月31日時点の予算執行状況が資料に基づいて報告された。第5回大会および理事会がweb開催となったことから当該科目の予算と執行状況に乖離が生じている。業務委託費は今後支払いが生じるので、収支差額は大きな額にはならない見込みが示された。

3. 第6回大会準備状況報告（報告事項）

長谷川理事より第6回大会の準備状況が報告された。当初は対面開催に向けて準備していたが、新型コロナウイルス感染症の流行状況や社会状況を鑑みWeb開催にすることとした。2月26日にシンポジウム・ワークショップの募集を締め切り、シンポジウム15件、ワークショップ4件の応募があった。特別講演は中日新聞社顧問・主筆の小出宣昭氏で演題は「デジタル社会の落とし穴」、教育講演は学校法人桐蔭学園理事長の溝上慎一氏で演題は「ニューノーマルでのアクティブラーニングはどのように求められる？」に決定している。Web開催とすると対面開催より経費が少し増える予定である。

大会事務局からできるだけ早くWeb開催の案内を発信することとし、各理事には参加者が増えるよう協力依頼が行われた。

4. 2021年度定時社員総会の開催時期・方法について（協議事項）

第6回大会をWeb開催することとなり、定時社員総会の開催日および開催方法について協議を行った。定時社員総会も前年度と同様Web開催することとし、大会期間中の開催の可否について長谷川理事に検討を依頼した。大会期間中に開催する場合でも、定時社員総会の運営は学会支援機構事務局が行うことを確認した。

5. 共催・協賛・後援基準内規案について（協議事項）

医学会連合の規約を参考に事務局で策定した共催・協賛・後援の基準内規案が斎藤氏より資料に基づいて紹介された。共催、協賛、後援の定義については経費負担との関係を明確にした上で、簡潔な内容（例えば共催と後援など）に整理することとした。経費負担がない場合の可否は総務担当理事が判断して理事会に報告することとし、経費負担が生じる共催の場合には理事会で検討する。共催等を依頼する方法を外部に対してわかりやすく示す必要があることを確認した。理事の意見を事務局で整理して案を修正し、次の理事会に改めて諮ることとした。

○第31回日本医療薬学会公募シンポジウムの共催について（協議事項）

高橋理事が第31回日本医療薬学会公募シンポジウムに応募し採択された「改訂モデル・コアカリキュラムと次世代を担う薬剤師教育の質的向上と課題」について、本学会と共催することが高橋理事より提案され、理事会として共催を承認した。

6. 学会賞選考委員会報告（選考結果について）（承認事項）

安原理事より学会賞選考委員会の議事録案に基づいて、学会賞の選考過程と結果について報告された。学会賞選考委員会からは教育研究奨励賞2名、教育実践奨励賞2名が推薦され、協議の結果、承認された。2020年度の学会賞受賞者は以下の通りである。応募者には事務局から選考結果を連絡し、受賞できなかった応募者には選考委員会から評価の総論をフィードバックする予定であることが確認された。

教育研究奨励賞：青江麻衣氏（大阪大谷大学薬学部）、串畑太郎氏（摂南大学薬学部）
教育実践奨励賞：池村 舞氏（神戸学院大学薬学部）、亀井大輔氏（昭和大学薬学部）

7. 倫理教育委員会報告（アンケート実施について）（報告事項）

有田理事より資料に基づいて「薬学人育成のための倫理教育とその評価に関する調査」の質問内容と調査結果の概要が報告された。アンケートは77校に送付し、51校から回答があった。倫理委員会では第6回大会でワークショップを企画しており、本アンケートの結果を用いる予定にしている。また、全大学へのフィードバック、薬学教育協議会のヒューマニティ関連教科担当教員会議での報告などについても検討している。

8. 実務実習委員会報告（活動計画、委員の委嘱について）（報告事項、承認事項）

鈴木理事より薬学実務実習委員会の活動計画が資料に基づいて紹介された。第6回大会ではシンポジウム「6年制薬学教育における臨床薬学教育のあり方を考える」を企画している。また、薬学実務実習委員会ワークショップを10月あるいは来年2月か3月に開催したい。以下の委員長および委員候補者が鈴木理事より提案され、承認された。事務局から委員の委嘱状を送付する。

委員長 鈴木 匡（名古屋市立大学・薬学教育学会理事）
委員 大津 史子（名城大学）
小佐野 博史（帝京大学・薬学教育学会理事）
佐藤 英治（福山大学）
段林 正明（大阪府済生会野江病院）

永田 泰造（日本薬剤師会・薬学教育学会理事）

平田 收正（和歌山県立医科大学）

9. 編集委員会報告（報告事項）

入江理事より資料に基づいて J-Stage 公開状況、論文投稿、審査状況が報告された。原著論文の投稿数が増加している状況ではない。投稿者から審査員の希望を聞くようになり、審査はスムーズに行われている。コロナ禍での教育に関する特集は早期公開しているが、最終的にどのような形で冊子体としてまとめていくか編集委員会で検討中である。現在は大学関係者の投稿が多いので、病院・薬局からの投稿を増やすことを考えていきたい。編集作業において、教育研究における倫理的配慮に大学間等で差があり、審査でも意見が割れることがある。本学会での指針について検討する予定である。

編集委員会の内規において任期を2年間としたので、一般社団法人の設立時からスタートすることとした。なお、規定に発行日を明記することとした。

また、編集委員に委嘱状を事務局から発行することとした。

10. 第5回大会決算報告（報告事項）

事務局より第5回大会の収支決算書が報告された。Web開催された第5回大会の収入は4,940,000円で、収支差額の67,522円が助成金返金として学会に戻された。

11. 理事長の職務執行状況（報告事項）

資料に基づいて2020年1月29日から2021年4月19日の理事長の職務執行状況が報告された。継続的な取組として、機関会員に未加入の14校と新設2校に入会を勧めていることが報告された。

12. 会員登録状況報告（報告事項）

資料に基づいて2021年3月31日時点の会員登録状況が事務局から報告された。個人会員651名、学生会員50名、機関会員65件、賛助会員8件で計774名。会員には2021年度の会費請求書が事務局より発送された。機関会員の加入校には冊子体のバックナンバーを提供することが理事長より提案され、承認された。

個人会員の所属（大学、病院、薬局等）について情報を整理する必要があり、事務局と方法を検討することとした。

13. その他

理事長より以下の3点が報告および確認された。

- ・ 広報関連として、各大会のまとめをホームページに掲載するよう手続きを進めている。
- ・ 第6回 AASP pharmacy education forum が 29-31 July 2021 にオンラインで開催される。
- ・ 役員の現在の所属を事務局より確認し、ホームページの役員名簿に反映する。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び出席監事がこれに署名捺印する。

2021年4月19日

一般社団法人 日本薬学教育学会

理事長 乾 賢一

監 事 林 正弘

監 事 吉富博則